

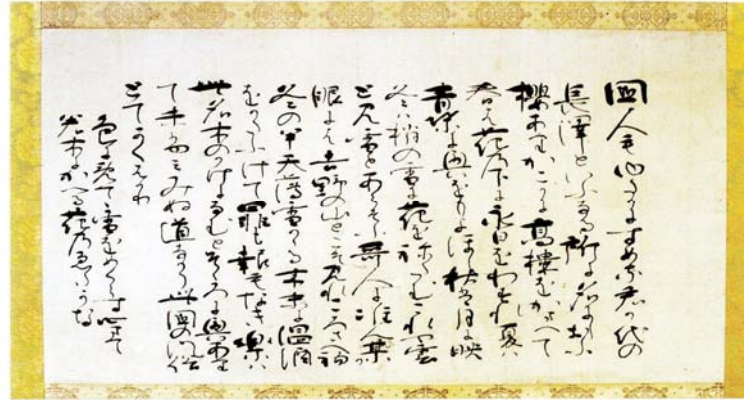
まえだまさとし

かんか うた

前田正甫 各願寺観花の詠

市指定有形文化財
(古文書)

婦中町長沢 5692
各願寺所有



國人もゆたかにすめる君か代の
長澤といふなる所にしおふ

櫻ありかここに高樓をかまへて
春は花の下に永日をわすれ夏ハ

青葉に興をもよほし秋は月に映
冬ハ梢の雪に花をねたむこれや雲

と見雪とあらそふ歌人に准へ某か
眼には吉野の山とこそ見れころさへ初

冬の半天薄雪かかる木末に温酒
をかたふけて罪も報もなき樂ハ

此名木のかげになむとそそろに興あり
て未ふみみぬ道ながら此国の風俗

とてかくはかり
色にめて雪をぬくらす心まで

若木にかへる花のゑたかな

二代目富山藩主のまえだまさとし前田正甫は、江戸時代、越中一の名木といわれた長沢山各願寺の九重桜を鑑賞しに、しばしば来遊しました。本書は長歌並びに短歌を記するものであり、初冬の頃の雪景色を詠じたものです。縦 31 cm、横 45.2 cmの掛幅装です。

前田正甫(1649~1706)本人の直筆であり、各願寺との関わりから貴重な歴史史料です。



箭保保養センター下車(地铁バス)徒歩3分